

unicef

ユニセフと地球の子どもたち⑥

http://www.unicef.or.jp

ちゅうごく
中 国
People's Republic of Chinaヨードがつかなく子どもたちの夢
ほんの少量が人生をかえる

ここは中国の内陸部にある甘粛省。十二歳のメイちゃん住む村は、山の上の方であって、村の土にはヨードという栄養素が不足しています。こういう地域では、とれた野菜やくだものを食べてもヨードがとれないんだって。どうやってヨードがとれるようになったのか、メイちゃんのお話を聞いてみよう。

小さじ一杯が
とれずに心配

わたしが住んでいる村は、海から遠い山にかこまれた高いところにあって、村の土にはわずかなヨードしかふくまれていません。



わたしは学校でヨードについていろいろなことを知りまし。ヨードは「微量栄養素」といって、ほんの少しの量をとりはよい栄養素です。ひとりが一生のうちに必要なヨードは、小さじ一杯くらいの量なんです。



「ヨード不足症」という病気になってしまいます。その病気にかかると、わたしたちのような育ちざかりの子どもは、体だけでなく脳の発育にも、とてもよくない影響が出てしまいます。

健康や脳の発育に大切な栄養素
塩に加えおぎなえるように工夫

ヨードは、人間にとって必要な栄養素なんです。コンブなどの海藻や魚、貝に多くふくまれていて、その量は十分な量をとりはよいんです。

ヨードは、人間にとって必要な栄養素なんです。コンブなどの海藻や魚、貝に多くふくまれていて、その量は十分な量をとりはよいんです。



成長に必要なヨードが入った塩の袋を持つ女の子

©UNICEF Beijing



ことがむずかしいのです。村の土で育った野菜からでは十分なヨードをとることができないので、お父さんもお母さんもわたしがヨード不足症にかからないか、とても心配していました。



お父さんもお母さん

でも、あるときユニセフの協力で、中国の政府の人が、すべての塩にヨードをくわえるように決めたのです。塩ならどの家庭でも使うから、ヨードも自然にとります。



一九八〇年代には、中国では一割くらいの人しか、この

掲載は一週おき。次は三十日の予定です

ユニセフと
いつしよに東京都大田区
馬込第三小学校

「ユニセフ募金にご協力ください。みんな育てたシクラメンをさし上げます」

シクラメンで子どもたちをすくおう

てこまめに水やりをしました。育てるのがむずかしいシクラメンも、心をこめて

始めました。花のさいいたシクラメンをどうしようかと考えたとき、ユニセフの協力のあるグループが、シクラメンでユニセフ募金をしようとして、地域のお寺の門前で募

金をよびかけることにしました。当日、人は来てくれるのかと不安でし

たが、たくさん募金をいただき、用意したシクラメンはすべてなくなりまし。世界の子どもたちをすくう活動を成功させた満足感は、わすれられない思い出になったことでしょ



募金に協力してくれた人にシクラメンをわたす馬込第三小の子どもたち

世界のすべての子どもは「権利」をもち、「子どもの権利条約」に守られています。

第二十四条【健康・医療への権利】

では、国は子どもがいつも健康でいられ

ヨード欠乏症で、学習障害の危機にさらされている新生児の数



4100万人

るように、できるかぎりのことをしなければならぬというた

子どもの権利条約

われています。今回のお話にあるように、ヨードのよな微量栄養素(ほん

んの少しあれば十分な栄養素)が足りないため、一生、障害を負ってしまうことがあります。基礎的な保健の知識がないために健康が害されることは、あってはならないのです。

おしえて！
ユニセフ

ユニセフの名前は、どこからきているのか？

発足時の英語名の頭文字
日本名は国際連合児童基金

ユニセフは、英語で「United Nations Children's Fund」(国際連合児童基金)といいますが、それぞれの頭文字をとって「UNICEF」となりました。この「UNICEF」とよばれるようになったのは、第二次世界大戦が終わった後、世界の子どもたちを守る仕事をするため、五三年に

「名前どこから？」前に「名前」が、ユニセフという名前がともな親しまれていたの、いまでもこのよび名が使われています。

